

20 地域ゆかりの文化の保存と継承			
主管課名	教育部 郷土博物館		
主管課長名	福澤 明	電話番号	042-481-7656
関係課名 (組織順)	総務課, 環境政策課, 緑と公園課, 都市計画課, 指導室, 社会教育課, 公民館, 図書館		
目的	対象	市民, 文化遺産	
	意図	文化遺産や伝統を次世代に伝え, 郷土への愛着をはぐくむ, 文化遺産を保存し, 学習素材やまちづくりに活用する	
施策の方向	地域ゆかりの文化資源や歴史・文化遺産を保存・活用することにより, 次の世代に継承し, ふるさと調布に対する愛着を育みます。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



1 令和元年度の振り返り — 取組実績 (DO)

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
施策における2つのアクション (①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信)	
<p>(20-1 史跡・文化財の保存及び活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国史跡下布田遺跡の整備・活用（史跡公園化）に向け, 整備基本計画策定のため審議・検討を行った。 ・深大寺所蔵「紺紙金字法華経」を市文化財に指定し, 文化財の保全を図った。 ・郷土学習展を開催し, 小学校の見学・体験学習を実施し学校教育との連携を図った。 ・調布の平成年間を振り返る企画展や（公財）調布市文化・コミュニティ振興財団と共催で地域ゆかりの彫刻家を紹介した移動展を開催し, 展示・普及事業の推進を図った。 	
<p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国史跡下布田遺跡の整備・活用の計画を推進するため史跡を活用した市民協働事業を実施した。 ・文化遺産の保存活用のため, 関係団体等と連携し深大寺所蔵文書の調査及び文化財の指定を行った。 <p>■連携テーマ2 「にぎわいとるおいのあるまちづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡の活用事業として市民協働事業「縄文の杜プロジェクト・千色工房」を開催し, 史跡の普及啓発を図った。 ・国庫補助事業として文化庁・東京都・深大寺との連携のもと深大寺所蔵近代文書等の調査を実施し, 深大寺の文化遺産についての保存・活用を推進した。 ・深大寺所蔵「慈恵大師坐像」の東京都文化財指定に当たり, 東京都による調査に協力した。併せて『調布の文化財』で広く周知を図った。 <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校連携として, 下布田遺跡近隣の学校向けに遺跡調査の見学会を実施したほか, 市内遺跡に関する出前授業を市内中学校向けに実施し, 遺跡への理解を深めた。 ・深大寺そば祭り関連事業として深大寺水車館において水車でそば粉ひきの実演を行った。 	
<p>(20-2 地域ゆかりの文化を生かした事業の展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武者小路実篤記念館において, 春・秋の特別展, 5回の企画展を幅広い内容で開催し, 新たな来館者の獲得, 記念館の認知度の向上を図った。 ・実篤の代表作である「友情」が発表から100年を迎えたことに伴い, 全ての展示事業で「友情」コーナーの設置, 関連講演会の実施等を行うことにより実篤作品に対して, より理解を深める一つのアプローチが図れた。 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止による小・中学校の臨時休業に伴い, ツイッターを活用した自宅学習の教材の発信・提供を通じて, 学習支援をするとともに, 小・中学生とその保護者に記念館へ興味を持ってもらう動機作りを行った。 	
<p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーワールドカップ2019の機運醸成のため, 展示事業を実施した。 <p>■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（一財）調布市武者小路実篤記念館理事長所蔵の資料を中心に日本ラグビー史関連の特別展示を開催した。 <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩川流域自治体交流イベントラリーに参加し, 記念館の事業活動等を他市に周知した。 	

<令和元年度における施策の成果についての総括>

- ・平成30年度に策定した国史跡下布田遺跡保存活用計画を基に、整備基本計画策定委員会を開催し、基本計画策定のための検討・協議を進めることができた。
- ・郷土学習展を開催し、多くの小学生が昔の暮らし等を体験することにより、郷土の歴史や文化を学ぶ機会が図れた。
- ・武者小路実篤記念館において継続的な展示事業の実施や、「友情」100年を記念した通年企画等を開催することができ、実篤への理解の向上、記念館の周知が図れた。

まちづくり指標 【☆：基本計画におけるまちづくり指標、◎：総合戦略における指標】		基準値 (基準年度)	単位	実績値 令和元年度	目標値 令和4年度
1	文化遺産の数(国・都・市指定等文化財)【☆】	74 (H29)	件	76	79
2	郷土博物館・実篤記念館の合計入館者数(実篤公園利用者含む)【☆】 (基準値は、平成25～29年の平均値)	5万 1,292	人	4万 6,033	5万 5,000
【備考】令和元年度 実篤記念館入館者数 8,344人、実篤公園利用者数 2万 4,973人、合計 3万 3,317人 令和元年度 郷土博物館入館者数 1万 2,716人					

2 令和元年度の振り返り — 評価 (CHECK)

総合評価	A	<p>S:「顕著な取組成果が得られた。計画以上に目標を達成した。」</p> <p>A:「予定した取組成果が得られた。計画どおりに目標を達成した。」</p> <p>B:「一定程度の取組成果が得られた。概ね計画どおりに目標を達成した。」</p> <p>C:「予定した取組成果が得られなかった。目標達成にはやや至らなかった。」</p> <p>D:「取組成果が得られなかった。目標達成までには至らなかった。」</p>
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・国史跡下布田遺跡の整備基本計画の策定に向けた計画案を作成することができたため。 ・新たに市文化財の指定を行うことができたため。 ・企画展や特別展をはじめ継続的な展示及び各種事業が予定どおり実施できたため。 	

3 施策の方向 — (ACTION)

区分	今後の取組の方向 ★：重点プロジェクトに関連する取組、●：新規の取組、○：拡充の検討を要する取組
令和2年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ●令和元年度に作成した計画案を基に、国史跡下布田遺跡の整備活用に向けた基本方針となる整備基本計画を策定する。 ・深大寺近代文書等の調査・整理を文化庁・東京都等と適切な連携体制のもと、進展させていく。 ・武者小路実篤記念館において『白樺』創刊110年を迎えたことを記念した特別展を開催する。
新型コロナウイルス感染症の影響に伴う対応	<ul style="list-style-type: none"> ・武者小路実篤記念館における春の特別展を次年度に延期 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため郷土博物館及び武者小路実篤記念館・実篤公園の臨時休館・休園を実施
東京2020大会開催延期に伴う対応	
台風への対応を踏まえた災害対応	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土博物館や武者小路実篤記念館の収蔵品を水害から守るため保管場所・保管方法について検討を進める。 ・文化財レスキュー活動(全国美術館会議)に参加し、今後の資料保存活動や水害対策のためのノウハウの蓄積に努める。
令和3年度以降の計画期間内の取組 (令和2年度から継続する取組を除く)	<ul style="list-style-type: none"> ●国史跡下布田遺跡の整備活用に関する基本設計(令和3年度)、実施設計(令和4年度)を行う。 ・深大寺近代文書等史料調査の最終年度(令和3年度)として資料目録を刊行する。

20 地域ゆかりの文化の保存と継承

No.	事務事業名	重点プロジェクト事業	総合戦略	所管部署	事務事業の概要
1	国史跡下布田遺跡の整備・活用			郷土博物館	<p>下布田遺跡は、狩猟採集から農耕へと移行する縄文時代晩期の複雑な社会構造を究明するうえで重要な遺跡として、昭和62年に国の史跡に指定された。その後、平成17、23、27年に追加指定が認められ、現在の指定面積は1万2772.14㎡である。国庫補助事業による史跡の公有化は平成8年度から継続的に進めており、令和元年度末の公有化面積は1万1923.14㎡（公有化率93.35%）である。</p> <p>今後も計画的に公有化事業を継続し、史跡保護に万全を図るとともに、早急に史跡の整備基本計画等の策定を進め、市民のための史跡公園として国庫補助事業による史跡整備事業を実施し、有効活用していく。</p>
2	郷土の歴史・文化を核とした展示・普及事業の推進			郷土博物館	<p>郷土の歴史と伝統文化に関する調査・研究や資料の保存を行うとともに、身近な地域の歴史について学ぶことのできる展示・普及事業を推進する。</p> <p>常設展示「調布の歴史」に加えて、企画展・特別展・移動展等の展示事業を開催し、講座・講演会・体験学習会・見学会等の普及事業を実施する。</p> <p>子どもたちが気軽に参加できる体験型の「子どもはくぶつかん」事業や学習講座を実施する。</p> <p>郷土の歴史と伝統文化に関する調査・研究の成果を公表するパンフレット等を発行する。また、ホームページ等により、学習機会についての情報を発信する。</p> <p>学校教育と連携した事業を実施する。</p>
3	武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開			郷土博物館	<p>武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開により、実篤研究の情報収集・発信機能の充実を図る。地域教育・文化の向上へ貢献するとともに、全国へ特色ある事業の魅力を発信する。子どもたちの豊かな心を育み、郷土に愛着と誇りを感じることができるよう積極的な働きかけを行う。また、地域ゆかりの貴重な文化的遺産を後世に伝えるために、収蔵品の整理、保存、修復等を行うとともに、作品・資料の収蔵情報をデータベースに登録し、広く情報を提供するとともに、展示や普及事業等に活用する。あわせて、情報提供システムにより作品や資料など、実篤に係る情報をより分かりやすく提供する。</p>

20 地域ゆかりの文化の保存と継承

※各事務事業の概要については、巻末の「⑦事務事業概要一覧」をご参照ください。

No.	事務事業名	重点プロジェクト事業	総合戦略	所管部署	R1 決算事業費(千円)	令和元年度の取組実績	実績評価	進捗状況・今後の取組の方向性									
								R1 取組実績				方向性				今後の取組内容 (新型コロナウイルス感染症の影響に関する内容は冒頭に◆印を記載しています)	
								計画前倒し	計画どおり	計画遅れ	有効性改善	効率性改善	財政面改善	参加と協働改善	改善余地なし		
1	国史跡下布田遺跡の整備・活用			郷土博物館	5,912	下布田遺跡整備基本計画策定委員会を2回開催し、史跡整備の具体的方針について審議・検討を行い、計画案を作成した。史跡の内容確認のため詳細確認調査を実施し、居住域の存在等を明らかにするため精査を行った。市民との協働事業として、史跡の自然を活用した草木染め等の体験学習を3回開催し、普及啓発を図った。	◎		●						●		下布田遺跡整備基本計画策定委員会を開催し、史跡整備基本計画の検討を進め、整備基本計画の市民説明会やパブリック・コメントも活用しながら計画を策定する。史跡における縄文時代の植生を確認するため学術調査を実施し、植生整備に反映する。史跡下布田遺跡を活用した体験学習会・見学会等の各種普及啓発事業を市民協働事業として継続して実施する。学校連携授業として、布田小学校の総合学習で下布田遺跡を取り上げてもらい、地元の史跡への興味関心を醸成する。史跡の公有地化を進めるため、建物移転補償を伴う地権者との交渉を継続する。史跡の適切な維持管理を行う。
2	郷土の歴史・文化を核とした展示・普及事業の推進			郷土博物館	2,567	展示事業・普及事業を実施することにより、郷土の歴史・文化遺産の活用に取り組んだ。展示事業では、常設展示、企画展(2回)、郷土学習展(1回)、ギャラリー展(6回)、(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団との共催による移動展(1回)、市立第三中学校での「歴史の部屋」を開催した。普及事業では、地域文化講演会、古文書講座、出前講座、「子どもはくぶつかん」事業(木工教室、月見だんご作り、しめ飾り作り)、夏休み体験教室等を実施した。また、学校連携事業として、学校への講師派遣、小学校の団体見学の際の解説と民具体験、中学生職場体験の受入等を実施した。「郷土博物館だより」(2500部)、企画展等の展示パンフレットを発行し、地域の歴史・文化遺産について情報発信を行った。	◎		●		●					展示事業では、考古・絵画・民俗といった多様な館蔵資料を用いて、調布地域の歴史を紹介する。その中で、令和2年度は、東京2020大会開催に向けた機運醸成を図り、1964年の東京オリンピックと調布市や調布市民との関わりを資料とともに紹介する展示や、深大寺との共催で令和元年度に東京都有形文化財に指定された深大寺慈恵大師座像に関連する寺宝を紹介する展示等を実施する。普及事業では、「子どもはくぶつかん」事業や夏休み体験教室の開催により、子どもたちに地域の歴史や伝統文化に触れる機会を提供する。学校教育連携事業は、学校との連携と相互交流を図り、事業の充実と質の向上を目指していく。郷土学習展及び民具体験学習の開催を通して、市内の小中学校に対して地域教育の場を提供する。ホームページだけでなくSNSを活用して、より積極的な情報発信を行う。	
3	武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開			郷土博物館	15,965	武者小路実篤記念館において、特別展2回と企画展5回を開催したほか、武者小路実篤の代表作「友情」が発表されてから100年を迎えたことから、年間を通して「友情」のリレー展示や関連事業を展開した。また、調布市がラグビーワールドカップ2019の会場となっていたことを踏まえ、大会の開催に合わせて、(一財)調布市武者小路実篤記念館の理事長が所蔵していた日本ラグビー史に関する資料の特別展示を行った。様々な事業の実施に取り組んだものの、令和元年度は春と秋の特別展における来館者が前年度と比べて多くなかったことや、酷暑消暑に伴う臨時休館等の影響により、実篤記念館の来館者数は8344人(前年度比1551人の減)となった。	○		●		●					実篤記念館における来館者数の更なる増加を目指し、展示、講座等の企画や、他団体との共催及び記念館のPRに効果的なグッズの作成を計画的に行うことで、実篤研究に基づく情報発信機能を適切に発揮していく。(一財)武者小路実篤記念館は、市から委託を受け実篤公園の管理を行うとともに、市からの指定を受けて記念館の指定管理業務を行っていることから、実篤公園について、指定管理事業と連携した更なる活用を検討していく。	
								0	3	0	2	0	0	1	0	計	
								0.0	100.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	割合(%)	

当該施策に体系付けられている全ての事務事業については、巻末に掲載している参考資料「⑥事務事業一覧(施策体系順)」をご参照ください。